

膨張性混和材 SACS

JIS A 6202「コンクリート膨張材」適合品 区分：膨張材30型

SACS(サクス)とは

SACSとはカルシウム・サルフォ・アルミネート系の膨張性セメント混和材できわめて安定した膨張性能を有しています。

SACSの特長

※比重2.93, 比表面積2900cm²/gの灰白色粉末で次のような特長を有しています。

- 1.SACSを使用したコンクリートは、配合量と有効膨張量が、なだらかな直線関係にあるため安定した膨張が得られます。
- 2.少ない使用量で有効な膨張が得られます。
- 3.膨張終了後の乾燥収縮が少ないためひびわれ防止効果が大きく、且つプレストレスの損失が少なくなります。
- 4.養生条件(蒸気養生の温度条件など)の変化に対して安定した膨張が得られます。

SACSの使用方法

1.標準混和量

使用目的に応じ、適正な混和量をえらび、過不足のないようにして下さい。標準として、収縮補償用では単位セメント量(コンクリート1m³当たりのセメント重量)のうち、25~35kg(セメント内割8~10%程度)をSACSに置き換えて下さい。またケミカルプレストレス導入用(二次製品など)では、単位セメント量のうち、50~60kgをSACSに置き換えて下さい。配合計算では(セメント+SACS)をセメントとみなして下さい。

2.練りませ

セメントと同時にSACSを投入し充分均一に混ざるように、通常の場合より練りませ時間を長めにして下さい。

3.養生

使用膨張効果を充分発現させるため、施工後5~7日間はなるべく表面が乾燥しないように養生して下さい。

4.保管

SACSは開封したら、なるべく早めに使用して下さい。使い残りが出た場合は防湿袋か缶に入れて密封保管して下さい。



荷姿：30kg/袋



エトリンガイト

(カルシウム・サルフォ・アルミネート水和物)

エトリンガイトはセメントペーストのコロイド状・ゲル間の微細な空隙にイガグリ状に発達し、ゲルの硬化収縮ならびに乾燥収縮を防ぐ働きをします。



耐震補強



ヒューム管

SACSを混和したコンクリートの物性

1.一般コンクリートの物性

まだ固まらないコンクリートの諸物性はブレンコンクリートと変わりません。硬化後のコンクリートは乾燥収縮量が少なくひびわれは発生しにくくなります。鉄筋などで拘束したコンクリートはプレストレスが導入されますので、曲げ、引張り強度の向上及び、ひびわれ防止の両点でともに一層効果的です。

2.高強度コンクリートの物性 (鉄筋拘束・常圧蒸気養生)

二次製品関係の高強度コンクリートは通常の単位セメント量の範囲では、SACSの混和量と膨張量との関係が直線的で安定した膨張が得られます。

SACSの用途

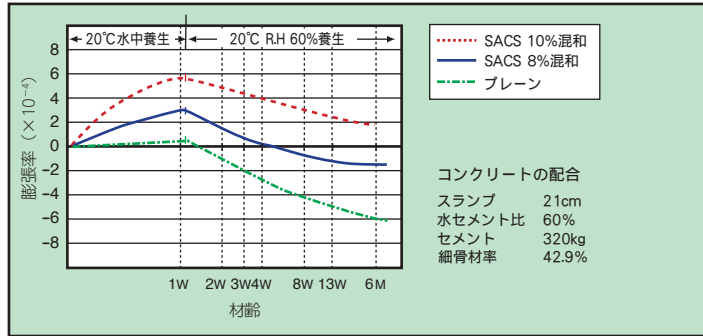
- 1.高強度ヒューム管、鋼管ライニング、高強度矢板、セグメント・ボックスカルバート等の二次製品関係。
- 2.アンカーボルトのグラウト、シースのグラウト、水圧鉄管の裏込めなど。
- 3.水槽、プール、床、壁体、道路などひびわれ防止。

※物性値の詳細については、当社試験成績表等をご参照ください。

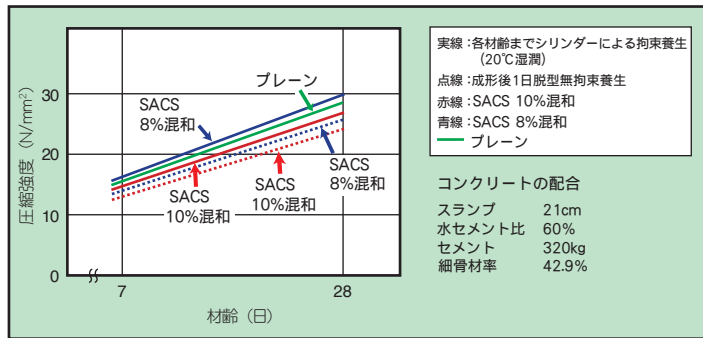
取り扱い上の注意

- 本製品は強いアルカリ性を呈し、目、鼻、皮膚等を刺激したり、粘膜に炎症を起こすことがあります。
- 作業時には、保護手袋、防塵マスク、防塵眼鏡等を必ず着用してください。
- 発塵に注意し、十分な換気に配慮してください。
- 目に入った場合は、きれいな水で十分に洗眼し、直ちに専門医の診察を受けてください。
- 口に入った場合は、きれいな水で十分にうがいをして、直ちに専門医の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、きれいな水で十分に洗い流してください。
- 開封したSACSは、なるべく早く使用してください。保管される場合は、必ず密封してください。

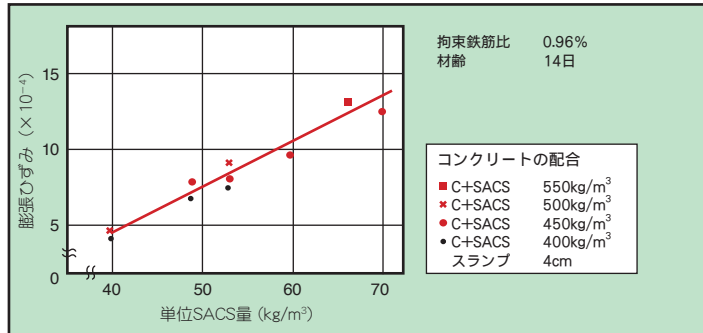
無拘束状態の膨張と収縮曲線



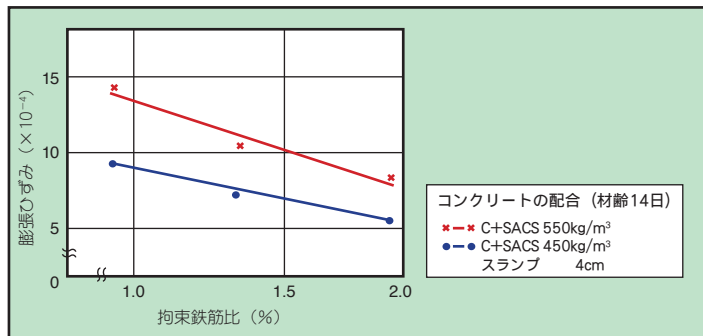
圧縮強度



単位SACS量 kg/m³と膨張量



拘束鉄筋比と膨張量



使用および取扱いの前に、当製品の安全データシート(SDS)をお読みください。本カタログの記載内容については、予告無しに変更する場合がありますので、予め御了承願います。

住友大阪セメント株式会社 建材事業部

- 東京 〒105-8641 東京都港区東新橋1-9-2 (汐留住友ビル20F)
 大阪 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-4(アクア堂島東館15F)
 名古屋 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル3F)
 札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-10-2(札幌HSビル10F)
 東北支店 〒980-6003 仙台市青葉区中央4-6-1(SS30 3F)
 北陸支店 〒920-0849 金沢市堀川新町2-1(井門金沢ビル7F)
 四国支店 〒760-0033 高松市丸の内4-4(四国通商ビル6F)
 広島支店 〒732-0827 広島市南区稲荷町4-1(広島稲荷町NKビル7F)
 福岡支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-2-5(紙与博多ビル8F)

- 電話 03(6370)2721 Fax 03(6370)2759
 電話 06(6342)7704 Fax 06(6342)7708
 電話 052(566)3202 Fax 052(566)3273
 電話 011(241)3901 Fax 011(221)1017
 電話 022(225)5251 Fax 022(266)2516
 電話 076(223)1505 Fax 076(223)0193
 電話 087(851)6330 Fax 087(822)6870
 電話 082(577)7645 Fax 082(577)7646
 電話 092(481)0186 Fax 092(471)0530

本製品に関するお問い合わせ・ご用命は